

2017年 7月号

通号68号

障がい学生支援室だより

学生総合支援センター 障がい学生支援室 発行



みなさん、こんにちは。

唐突ですが、スーパーマリオブラザーズというゲームを知っていますか？
ピーチ姫を助けるために、赤色の服と緑色の服を着た双子の大工のオヤジ（に見えて、実はまだ26歳前後）が奮闘するあのゲームです。今月号では、以前ネット上で話題になった、バリアフリーなマリオの世界を描く動画をご紹介します。



スーパーマリオとバリアフリー

◆車いすマリオが話題

土管、底なしの穴、妙に殺傷能力の高い動植物、空中に浮かぶブロック、火の玉等々、よく考えてみればスーパーマリオのいるキノコ王国って、異様にバリア（社会的障壁）まみれの世界です。そんな世界において、もしマリオが大けがをして車いす生活になったらどうなるか…を描いた動画が、約1年半ほど前に話題になっていました。

<https://www.youtube.com/watch?v=DvaPRIZtfyc>

車いすをこぎながら、マリオは健気にピーチ姫を助けに向かいます。しかし、スタートからもの数メートルもいかないうちに、最初の土管の前で立ち往生。マリオは男泣きします。するとそこへ弟のルイージが現れます。ルイージは少し考え、妙案を思いつきます。さすがは大工さん（ハリウッドの劇場版では配管工）、あっという間にキノコ王国をバリアフリーな世界にします。何がどうバリアフリーになったのかは、上のURLから実際に確認してみましょう。ルイージのおかげで、車いすのマリオは快適に進むことができるようになり、見事に1-1をクリアします。しかしルイージがバリアフリーにしたのは、1-1 だけでした。1-2 に入ってしまったマリオは…衝撃の結末が待ち受けます。

◆現在はバリアフリーな時代？

この動画では、車いすのマリオが1-1をクリア後、以下のようなメッセージが表示されます。

「It's not the 80's anymore」（もう80年代ではない）

「Enable access for everyone」（誰にとってもアクセスしやすいように）

マリオが発売された80年代は、まだまだバリアだらけの世界でしたが、現代はもうそんな時代ではない、誰もが移動しやすい世界にしていこうという内容を訴えているようです。

80年代と比べると、現在では、最低限、段差にはスロープが設置され、通路には点字ブロックが敷かれ、建物内にはエレベーターが設置され、身体障がい者用の駐車スペースが設けられ、多目的トイレもずいぶんと増えました。30年前からすると、飛躍的にバリアフリー化が進んでいるといえるでしょう。では、現在は、誰もが移動しやすい社会になっているといえるでしょうか。

残念ながら、まだまだそうはいえないでしょう。一般的な人には、なかなか気づきにくいバリア、あるいは何の気なしに作り出してしまっているバリアが、実際には多数存在します。

◆気づかれにくいバリア

普通に歩行できる人にとっては、とてもバリアと感ぜないようなものが、実は特定の人には、大きなバリアとなることがあります。例えば、車いす利用者にとって、小さな段差やちょっとした坂道、舗装されていない道路や、デコボコのアスファルト、十分なスペースのないエレベーター、溝の大きいグレーチング（排水溝にかける蓋）など、移動の際のバリアは多々存在します。

また、普段皆さんが、特に意識せずに行っている行動が、ひそかに大きなバリアを生み出してしまふことがあります。例えば、自転車を停めた場所が、実は点字ブロックの上だったり、身体障がい者用の駐車スペースの前だった場合、スポーツタイプの自転車をスロープの手すり部分に立てかけていた場合、交差点や狭い道を自転車で猛スピードで走っていた場合、廊下に何らかの物を置いていた場合、教室内の机や椅子等の位置を動かしたまま元に戻さなかった場合等々、車いす利用者や視覚障がいの方が移動する際に、実は大きなバリアとなり得る例は、多々あります。車いす利用者からは見えない高い位置に掲示されたプリントなども、バリアといえるでしょう。

バリアフリーな社会を構築していくためには、このような気づかれにくいバリアも無くしていくよう努めなければなりません。

ご紹介

障がい疑似体験

先に挙げたバリアを生み出してしまふ例の中には、相手の立場に立って考えれば、十分に防ぐことのできるバリアもあります。しかし、実際には、車いす利用者や視覚障がいの方が、日常生活の中で、どのようなことに困るのか、そう簡単には想像しづらいのではないのでしょうか。

相手の立場に立って考えやすくする方法として、疑似体験があります。障がい学生支援室の提供している教養教育科目「障がい学生支援入門」（1単位、年2回開講）では、車いす体験や視覚障がい疑似体験（DAASという専用のキットを用いた体験）等、様々な体験を受講生の方にしてもらっています。このような疑似体験を通して、実際に障がいを有する方が、どのような場面で困るのか、どのような事物をバリアと感じるのかなどを、身をもって体験することで、より相手の立場に立って考えるきっかけにもらっています。

みなさんの少しの思いやりが、バリアフリー化促進の大きな一歩となります。この授業は、毎年、2学期、3学期の2回開講していますので、興味のある方は、是非受講をご検討ください。

お知らせ

上の「障がい学生支援入門」とは別に、障がい学生支援室では、様々な疑似体験を行う出前講座や、支援機器の貸し出しを行っています。授業に取り入れてみたいとお考えの先生、サークル・その他団体（学内）の方は、是非お気軽にお問合せください。毎年、複数の授業で実施させて頂いています。

【これまで実施したことのある疑似体験授業】

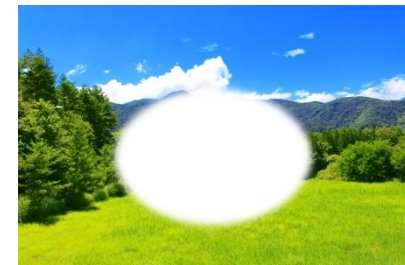
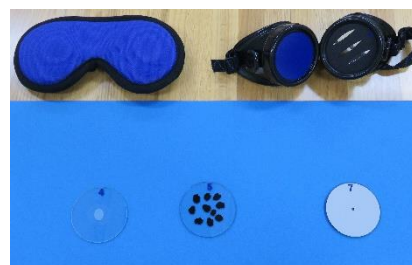
◆車いす体験 ◆視覚障がい体験 ◆高齢者体験 等

※高齢者体験では、ひじ・ひざサポーター、重りバンド等、多くの物を体に装着しての体験となりますので、暑い夏場に実施を検討される場合には、この点をご考慮ください。

◆疑似体験グッズのご紹介

ダス（DAAS）視覚障がい疑似体験キット

10種類の疑似レンズが用意されており、それらを専用のゴーグルにはめて装着することで、様々な視覚障がいの視覚状態を体験できます。



- 上図の左端のレンズは、黄斑部変性症（周囲の視力が歪んで変化することによって、中心の視力がなくなる。）の疑似体験レンズです。
- 右図は、レンズを装着した場合の見え方です。

高齢者疑似体験教材

専用の視覚障がいゴーグル、イヤーマフ（ヘッドフォンタイプの防音保護具）、ひじ・ひざサポーター、重りバンド等を装着して移動してみることで、高齢者の生活を体感できます。



足首の重りは 1 kg、
手首の重りは 500 g
もあります。

岡山大学
学生総合支援センター
障がい学生支援室

【場 所】 一般教育棟 D 棟 1 階

【開室時間】 月～金：10:00～12:00／13:00～17:00

【連絡先】 086-251-8553（支援室受付）

【E-mail】 shien-dr@okayama-u.ac.jp

